群山俄道中記

ヨ便

六月九日　山盤水神生

臨益水利組合長 藤井寬太郎氏の談

朝鮮に於ける農事につき改良すべき點は種々ありますが其急務とする處は水利灌漑の設備である事は何人も首肯する處で種子の改良耕作法の改善肥料の改良等の諸てが根本に於ける灌漑の完成を待つに非れば其功果なき事は明かであります抑も本來我が三南の地は氣候溫和に地味豐沃朝鮮唯一農業地として世に知られ其氣候風土の天惠は古來同地方に於ける農事の發達を促進したるもの如く水利設備の如き往昔に於ては頗る完備し居りたりと想像し得べき遺跡も屢々見る處でありますが李朝以來數百年間の秕政はあらゆる制度を荒廢せしめ山林は禿し水源は枯れ堤防河川整理の如きは數百年間全く放棄して顧みられなかつたので灌漑の如き全く天水に待つの外なき現狀に立ち至つたのであります特に我全州平野西半部の如き平野連亘地味豐饒頗る米作に適しながらも水利荒廢の結果再々旱害水害絕ゆる事なく去る四十二年度の如きは殆ど苗代も又枯死して全々植付を成す能はざりし爲め同地方に於ては一粒の收穫をも見る事が出來ず耕耘種苗の費用約十万圓は全く徒消せらるゝと云ふ有樣で赤貧なる農民は一般物價の騰貴に比例して其生活は益々窮迫に陷るの實狀は見るに忍びない有樣でありました由來同地方の普通耕地は如上水利の不便より先づ三年一回豫期の收穫を得るに過ぎ無いと云ふ次第で自然地價は極めて低廉で一反步僅々十圓內外を以て賣買せらるゝと云ふ次第でありました處が三十七八年日露戰役以來朝鮮農事の有利なる事を感知したる母國人は會々三南の平野に來り其外觀平野連亘して一見地味も頗る豐饒に且つ交通運輸の便も比較的良好にして然も地價極めて低廉なるより陸續と該地方の土地を買收し農事經營に從事するもの續々增加し斯く云ふ自分も此地に農場を設け農事の經營に從事し傍ら改良に力めたのでありますが其實驗の結果米作の如き其灌漑と肥料を適當ならしむれば一反步當に三石以上に達し時に四石の收穫を見る事も珍らしからず米種としては新潟縣の原產高千穗種（原名京大黑）等は最も成績よく其米質の良好なる爲は肥後米より一圓五十錢の高價に賣れるのに見ても明かなる次第でありま從て之を一般下種せしむれば其利益は誠に莫大なるものあるべきも殘念な事には水利の荒廢はかゝる有利なる計畫も實行する事が出來ないので先づ幾多の實見を試みました、それで在來朝鮮は普通灌漑設備としては如何なる方法を取つて居るかと云ふに第一天水を待ち、次に河川等の水を引くにはツーレーと稱する極めて粗造なる水揚器械を以つて非常に過大なる勞力を費し灌漑するのでありますが到底廣い面積に對して供給すると云ふ事は勞力の不足より出來得ないのであります其處で自分は之に代ふるに先づ水車を試みた成る程耕地附近に都合よく水車を使用し得べき河川貯池等ある場合には是れでもやれるが元來多くは源泉なき溜水故元が盡きれば仕方が無いそこで第二の方法として掘貫井戸を試みんと阿波三河等より井戸掘業者を傭聘して實見したがこれも結局失敗に終つた其失敗に終つた理由としては聊か日本と異れる地勢上の面白い關係があるのであります本來日本に於ける地勢は中央分水嶺より海岸面に近づくに從つて平野は漸次低下するのが普通の狀態で且つ山脈に殆ど總て樹木繁茂し水分の蓄積に於て所謂陸上の海綿としての機能があるので其低地は掘拔井戸を作れば大低井水は湧出するが朝鮮の地勢は所謂大陸的地勢で其山脈波濤狀を成し各山脈の間に横はれる平地は海拔の高低に於て多く大差なく抑之山脈多く禿し水分の蓄積に乏しい隨つて掘拔井水湧出極めて少量にして到底日本などに於ける井水灌漑法の踏襲は出來ないと云ふ次第で終局失敗に終つたのであります

●滿鮮航路の將來

朝鮮の各沿海より關東州沿岸に渉る一帶の航運が前途頗る多望なるを以て近來我が中央政府當局者並びに當業者も漸く之に注目するに至りたるが遞信省にては明年中に於て東洋近海の命令航路補助契約滿限となるもの多きより過般來南滿、北滿の各地に管船局の官吏を派しられ〱調査すると同時に今回は關東州並びに朝鮮の沿海にも派遣するに至れり又

▲日本郵船會社　にては從來閑却したる同航路に對し今後多少の活動を試むべく幹部に於て既に決定したるものゝ如く長崎、上海間の航路より弘濟、博愛の二船を引上げ神戶、北濟間の定期船を增發すべしと傳へらるゝ折柄北滿一帶の會社代理店の東京に於ける事務打合　同は其準備的會合なるべしとて多少世人の注意を惹ける處なり

▲大阪商船會社　にては嚢に英國アームストロング會社に對し二隻の貨物專用船を注文し將來は本邦船舶の貨客混合船たりしに對し一新機軸を出さんとし內地大連間の特種產物の運送に當らしむべく大に計畫中なりといふ要するに安奉線の改築と

▲鴨綠江架橋工事　の完成後に於ける滿韓鐵道の貨客吸收に對し當局者は郵商船の定期命令航路船への國庫補助を如何にせんとするか又た其の航路補助の程度如何は今後利用して見るべき問題なるべし

●北滿の棉布市況

近來北滿棉布市場に於て日米の棉布戰爭開始さるゝやも知れずと噂し合へる向きあるが元來北滿に於ける棉布は去三十九年日露戰爭後米國品棉布の賣行好良なるを見て大阪の三大會社は合同して輸出を試み三井物產によりて盛んに競爭を開始したる結果米國品十四封半のものを四十年頃には日本品にて殆んど驅逐し去り昨年末には例年の三分一に達せざる狀況なるに引換へ本邦品十四封半品は現在毎月二千五百梱一ケ年三萬梱に達する盛況にて殊に昨年來更に十三封半品を輸出したるに之亦米國品以上の廉價なるより昨今其注文漸次增加し五月の如きは實に三千梱の取引あり今後尙盛況に向はんとする傾向あるより北滿を驅逐されたる米國商人は更に米國商人と提携して日本に當らんと試みたるらしく昨年八月頃にも米國にては同業者トラスト的同盟を爲して北滿の棉布市場に現はるべしと傳へられたるが當時は遂に一時の噂に止まりしが今回も上海より三千梱送られたりとの事なるも現在の北滿市場には常に一万梱內外の日本品ある狀態なれば到底何等の變動を起すにも足らざる可く唯だ此トラスト的輸入が毎日連續せば相當の警戒を要すべしとなり

●神經衰弱の豫防（一）

神經衰弱症の恐るべきものなることは云ふ迄もないことだ、今其豫防法に就いて述べて見よりに何も一般傳染病のやうに一室に隔離するとか消毒をするとか一定したものではないのである病氣の原因となるべきものを避け除く外はないのである。既に此の病氣に罹つた人は原因を全然除き去る事は出來難い事であるが壯健なる人は日常の攝生を愼しみ未然に防ぐやうにしなければならない精神の勞役には一定の規律ある順序を設け常に精神の休息慰安を心掛け身體の營養を損せず適當の職業を選び食餌、運動、睡眠にも能く注意したらば神經衰弱症に罹る憂ひは先づ無いと云つて宜い以下項を分けて豫防の注意を說明しよう。

其一　營養の注意

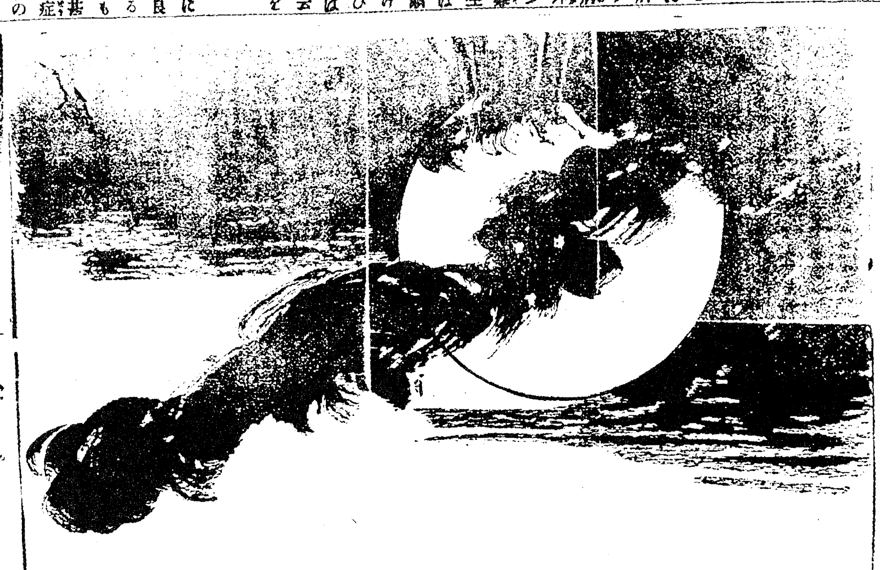
健康體と不健康體とは營養の如何に依つて判斷がつくものである營養の良いものは肉附が良く皮膚に光澤がある營養の惡いものは顏色が蒼く皮膚にも光澤がない神經衰弱と營養の關係は甚だ密接で營養不良より來る神經衰弱症は極めて多いのであるけれども肉體の營養にのみ注意して神經の保養を等閑にすると腦神經を弱くして忽ち神經衰弱に罹る

（一）腦の注意、腦は神經の中樞で極めて大切な場所だ腦の營養を保護する大切な機關として甲狀腺と云ふものがある甲狀腺は腦の左右にあつて腦に循環する血液は此の甲狀腺に依つて消毒される仕組になつて居るが併し甲狀腺は煙草のやうに毎日多量の毒物を送られると到底十分の消毒を仕切れず腦より先に中毒してしまふ肝腎の甲狀腺が中毒すると血液を消毒する任務を果す事が出來ない腦に循環する血液は勢ひ不潔なものとならねばならぬ猶に故障の起るのは當然の至りである腦を惡くするのは神經衰弱症を惹起す最大原因て云ひ換うれば腦の健全を計るのは神經衰弱の豫防法になる

（二）齒の注意、齒は食物の消化吸收を務むる機關の一つで食物を細かに嚙碎くのが役目になつて居る齒の惡いものは十分食物を嚙碎く事が出來ない從つて胃も腸も健全で居られなくなる

（三）胃の注意、胃は食物を消化するのが役目になつて居る惡くなると消化作用が不十分になる消化不十分の食物を送られた腸は堪つたものではない





召使れ初　第八十四回

默法師

あはれお道は圖らずも此渦中へ卷き込まれたるなり、忠義心を土臺にして一圖に奉公を勵みたらば、出世の光りはこの中に輝くならんと思ひたるは空頼みとなりて、忠義奉公の外に尙ほ多くの交渉を要する上、尙は多くの係累に苦しむなりき、お上に仕へ奉る御用は少く、この爾派纏綿の間に挾まりて心身を勞すること極めて多かりき

されど彼女は、召使にお縁を應ひてより、よき相談相手を得たるなりき、お察は眞實に如才なく忠義心に富みて影日向なく仕ふるなりき、歌と云へば歌、花と云へば花、香、茶、書銘、何一つ心得ぬ事もなく、相談相手として良きのみならず、遊び相手として此上なかるべき良き友なりき、彼女はその日の勤務を果して、その身の部屋へ歸るにも、いろ〱と氣が進まるゝなり、今日は什麼して遊び暮さん、今夜は什麼の物語して話し明かさん

「お道どの、在らせかの」

沈みて力なき聲にて呼ぶは中年寄の若江なりき、次の間に夕餉の準備忙しきお察は、俄かに出迎ひ

「旦那樣在らせ、まづお入りござりませ」

「お問ねはござらぬかの」

「ちよと覗ふて見まする、されど常々御懇意のお間柄、お妨げはあるまいと心得まする」

云ひかけて奥の間を向く、お道は笑ましげに、襖の間より顏を見せ

「さ、入らせませ、常夏の花見頃とござります」

「罷るしめ、お邪魔仕る」

若江は一禮して奥へ入る、靑簾に浪碎けて、庭の靑葉翠滴しく、石燈籠の蔭に一もと栽ゑたる常夏の花搖れなり

「御前御不豫、御容體什麼とござりませう」

「近々御快癒と申すこと、早や御心配は要りませぬ」

「何よりも重疊、歎ばしい事でござりますするな」

「それの歎ばしいよりも、あなたお身の上に恐ろしいお疑ひかゝりてござります、まだ御聞かせござりませぬな」

「はゝ」とお道は我が耳を信せぬやうに「私の身にお疑ひござりまするとそりや何事でござりまするな」

「他とはござりませぬ、海老屋儀右衞門御存じでござりまするか」

「存じて居りまする」と問を重ねて「その儀右衞門、什麼致したでござります」

「大切御事、お秘しなされてはなりませぬ、あなたその儀右衞門と何かお約束なさせられたことござりまするか」

「少しも覺えませぬ、自體左樣の事どうして御存じでござりまする」

「儀右衞門から、あなた樣へ密書參つてござります」

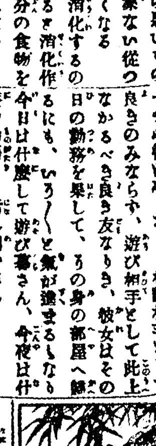
「ヱ、私へ……」

「二目とは見られぬ、猥かしいお文でござります」

「はて、存じ掛けぬ、眞實でござりまするか」

「然ればのお文、澤野樣召使お住の手へ入つたを、今日御前樣へ御披露なされたでござります」

此事眞ならば万事休む、お道の面色は見る〱間に土の如く變りたり、お道の驚きよりも次の間に聞くともなく聞き居れるお察の胸は、宛ら早鐘を撞く如く響きて、焜炉を煽ぐ團扇の手も止みがちなりき



東京電報（廿三日發）

▲國鐵の純益額 衆議院四十三年度決算を聞くに歳入總額は九千百七十万圓之に對する歳出は七千八百九十萬圓差引千二百八十万圓の純益を示せり

▲戴冠式と東京 廿二日英皇戴冠式に付ては各銀行會社は休業し各戸の軒頭國旗を掲げ英大使館は午後九時より祝賀を受け戴冠式を祝せり

▲日瑞條約調印 瑞西との條約は調印濟となりたり

▲露國大使出發 廿日歸國の筈なりし露國大使は都合に依り二十五日午後七時二十分新橋發敦賀を經て歸國の途に就く可し

▲露國大使後任 駐日露國大使マレウヰッチ氏は同國參議員となり後任は目下アルメニア駐剳露國大使ドワイセチエン氏なりとの說あり

▲大統領の謝電 米國大統領タフト氏の銀婚式祝典擧行に付 我天皇陛下より懇篤なる祝電を發せられたるに對し昨日大統領より謝電ありたり

▲勤王志士贈位 天皇陛下には來る十一月九州に擧行の大演習に行幸の際同地方の勤王志士其他の功勞者に對し贈位の御沙汰あるべしと漏れ承はる

▲濟生會官吏寄附 財團濟生會に對する官吏の寄附金は愈々七月の俸給より納付せしむる事に決定せり

▲葡萄園の全滅 今回の暴風雨にて山梨縣下の葡萄園は全滅し死傷者多數を出せり

▲燒失山林面積 北海道各林區署の調査したる國有林山火事被害は二十六萬千九百二十六丁步餘材積千百二十五萬三千五百六十六尺〆價格九十三万四千九百九十一圓なるが未開地民有林の被害は尙不明なり

▲維新史編纂會 維新史料編纂委員會第一回を二十日開會し秘密に協議する處ありたり

▲鹿兒島の大風雨 鹿兒島に於ては一昨廿一日夜來大風雨にて浸水數百戸に及び兵士出動救助中なり

雜報

●寺内總督の祝電
二十二日は英國皇帝陛下の戴冠式に付寺内總督には同日東京駐在英國大使に宛て祝電を發したり

●法律適用令
二十二日制令第十一號を以て制令に於て法律に依るの規定ある場合に於て其の法律の改正ありたるときは改正法律に依るの件公布[illegible]

●定例局長會議
二十三日午前九時より總督府に於て定例局長會議を開き寺内總督を始め宇佐美、小松の各部長官、石塚、荒井、[illegible]長官、明石警務總長、池田通信局長官、俵[illegible]の兩代理列席政務の打合をなし午[illegible]一時散會す

●法律取調委員會
[illegible]東京司法省に於て開會の司法官會議中なりし法律取調委員會は二十三日午後二時より高等法院長、渡邊高等法院檢事長、[illegible]司法部長官、[illegible]松寺檢事正、安住刑事課長[illegible]の諸氏列席[illegible]

●英領事の滿足
二十二日英國戴冠式に就て京城在留日英國民の祝意を表し夜に入りては二千餘名の提灯行列をなし英國領事館に至り英皇陛下の萬歲を唱へしがハイドレー氏は深く感謝し大に滿足の旨を述べたりと

●林業出願と處分
去る四、五兩月中に於て農商工部が處分したる林野關係の出願件數左の如し

	受附件數	許可件數	不許可件數
林野貸付願	二〇	七	一七
林產物拂下願	七五	五三	一四
土石拂下願	一四	五	一二
林野讓與願	二	‥	‥
部分林設定願	六	‥	七
雜件	五	二	三
計	一二二	六七	五三

●關屋局長の講演
關屋學務局長は二十三日午前十時より當地貞洞英國敎會の依賴により同敎會に於て學事上の講演を爲したり

●學務局長講演（一）
別項基督敎宣敎師會議席上に於て 余は今日此會合に臨み諸君と相會するを得るのみならず余の擔任せる敎育に關し一場の卑見を述るを光榮とす余は多年朝鮮人の敎化に盡力せられたる諸君の意見と經驗とにつき學ぶ所多きを信じ諸君と相會する機會益々多からんことを望むものなり朝鮮人敎育に關しては種々の意見あるべしと雖要するに朝鮮人の福利を增進し日本帝國の忠良なる臣民となり進んで人文の發達を期するに外ならず是れ過般寺内總督閣下が併合に際し敎育の要は智を進め德を磨き修身齊家に資するに在りと諭告せられたる所以にして此目的は學校の官公私立たるを問はず一貫せる敎育の方針なりと謂ふを得べく而して諸君が經營せらるゝ基督敎學校の目的も亦此に外ならざる[illegible]……普通敎育の擴張を圖り特に昨年併合に際し我天皇陛下より下し賜ひし恩賜金一千七百萬圓の利子中其五分一宇を以て普通敎育の費用に充てられたり此を以て本年度に於て百三十有餘の普通學校を增設するに至り更に將來に於ても地方の民度と政府財政の許す限り徐々之が增設を見るに至るべし

●血淸製造所新設
農商務省にて位置選定中なりし牛疫血淸製造所は今回釜山府舍下面岩南洞に設置する事は確定し既に土地買收を終り建築工事に着手する筈にて場長望月瀧三氏は一兩日渡鮮工事の監督を爲す由因に該新營費は約五萬圓にして朝鮮滿洲臺灣の分も同所にて管轄す可き筈也

●隊長會議と諸問案
來る二十七日より憲兵司令部に於て開催さる可き隊長會議諸問案は既に確定し各隊長よりの提出案は合計二百餘件の多きに下り居る由尙ほ今回は各長官よりも處管事務打合わるとの事なれば五日間の會期なるも多分十日位に延期さるべし

●政務總監着期
山縣政務總監の一行は二十三日郷里山口を發し途中萩に立寄り來る二十六日夜南大門着の旨通報ありたり

●隊長會議と會場
來る二十七日より憲兵司令部に於て開會の筈なる[illegible]憲兵隊長會議の會場は當第一[illegible]なりと

●朝鮮織物視察
新潟[illegible]經費の補助を受け朝鮮に於る職物業視察の爲め同縣の機織業者六名は來る[illegible]朝鮮內各要地を視察する後京城若しくは釜山に織具等の陳列物を設置する[illegible]なりと

●祝賀假裝會を催す
[illegible]氏は二十三日午後八時より[illegible]明石總長、各國領事等を[illegible]ホテルに招待し戴冠式祝賀[illegible]

●講習會と朝鮮
[illegible]岐阜市名和昆虫研究所[illegible]全國害蟲驅除講習會開[illegible]出席したる總督府派遣[illegible]朝鮮にては從來冬[illegible]のため害虫は死に絶滅す[illegible]必要なしとの信念一般[illegible]決して僅少ならざる[illegible]方面[illegible]講習會に農事當局者を[illegible]議ありと云ふ

●柴田總裁出發期
目下滯京中なる柴田拓殖局總裁の一行は愈來る二十五日朝當地出發馬山を經て二十六日同地より鐵路歸東の途に就くへしと

●柴田氏と同窓會
二十三日午後七時より京城ホテルに於て行政長官秋山參事官、三宅判事等の發起にて目下滯京中の柴田總裁招待を兼ね同窓會を開き晩餐會等ありて盛會を極めたり

●柴田總裁醫院參觀
二十三日午前九時三十分柴田拓殖局總裁は立花書記官外一名の隨員と共に總督府醫院を巡視し藤田院長より院務の狀況及醫科生徒の敎養並朝鮮人產婆看護婦養成に關する事務の報告を受け院內各病室及生徒敎養の實地を巡視し午前十一時過ぎ昌德宮へ向へり

●國分檢事長消息
去る十二日以來管內裁判所憲兵隊警察署及監獄署等の檢察事務視察中なる國分高等法院檢事長及淸水同高等法院書記長の一行は二十三日歸任の筈なりしも公州より歸途江景區裁判所群山仁川等を視察の上來る二十六日當地着の旨通報ありたり

●木內長官歸期
去る二十日東京を出發したる木內農商工部長官は二十四日午後八時十分南大門驛入京の筈

●民會の委員會
今二十三日午後一時より民團役所樓上に於て小學校新築に關する委員會を開く

●南大門外家屋取拂期
南大門より停車場に至る道路取擴工事に關する取拂期は愈々七月末日迄と決定し該地區域內に於ける日本人所有の土地家屋は全部買收の協商濟みたるも獨り朝鮮人の土地所有者のみは頑として當局の買收に應ぜず屢々府廳道廳等に出頭を促して說論せんとしたるも其出頭すら肯せざるの狀なるより愈々收用法を適用さる事に決定せりと云ふ

●各郡守の交迭
朝鮮總督府郡守李鍾國外慶尙北道十五郡の郡守交迭二十日附を以て發表されたり

●李王家山林整理
李王家附屬の山林は陵園墓に關する內該字及外該字の內外該字は國有となし內該字は李王家に存置するの方針にて臨時財產整理局にて整理しつゝありたるところ其後該山林は一切農商工部の管理に屬し近來まで何等の區別無かりしに依り同部にては今般其整理をなすことに決定し目下夫々進行中なるが水原なる華山（千三百町步）の如き既に李王家へ引繼ぎたりと云ふ

●商議定期總會
二十三日午後二時より京城日本人商業會議所にては會議所定期總會を開き四十三年度決算報告其他二三の議題を附議したり

●開城地方麥作
開城地方の麥作は目下の所にては例年より約一割五分の增收ある見込にして過日の降雨は一般の作物に好影響を及ぼし人民は非常に喜び居ると云ふ

●朝鮮物產陳列場
農商工部に於ては近く永樂町元特許局跡に朝鮮特產陳列場を開設すべしとは既報の如くなるが同部商工局の森氏京都より本日歸任の上は直ちに開場準備に着手し八月上旬頃までは一般縱覽に供せしむるに至るべしと

●警察官服制
總督府警察官の服制改正に就ては過般來當局に於て審議中の所愈々決定し遠からず發表さるべし多分冬服より着用せしむる筈なりと

●春秋會晩餐會
當地記者團有志の組織に係る春秋會は二十二日午後四時より萬千閣に於て晩餐會を開催せり

●海老名氏旅程
入京目下井出三郎氏方に宿泊中なる海老名彈正氏一行の日程を聞くに二十三日は皇城靑年會の講演會に臨み明二十四日朝南大門驛發平壤に向ひ同地に於て平壤敎會演說傳道を行ひ來二十六七日頃再び當地に引返し來月二日迄滯在專ら傳道講演に從事する由

●植村正久氏講演
京城日本キリスト敎會の催にて二十三日午後八時より京城ホテルに於て植村正久氏の宗敎講演會開催さる由なりしが因に會場の都合に依り招待券なき人に對しては遺憾ながら入場謝絕することもあるべし

●パンペテン氏來る
橫濱成蹊女學校經營者及婦人傳道師養成者として有名なるパンペテン夫人は目下京城に開會中なるメソヂスト敎育年會に參加旁婦人傳道の實績視察を兼ね木原牧師同道二十三日夜着京すへし

●精神統一の研究
總督府技師にして當時南山町に住せる渡邊歸一氏は今回「精神統一千里眼千里耳の學說」と題せる一書を著し之を世に公にせり、氏が嘗て研究せる催眠術の實驗上同術と彼千里眼なるものと同一なるを論斷せしものにして書中『余は自巳の實驗世間の報告、自己の信仰宇宙の攝理等より人類は何人と雖も千里眼たるべき天性を具へ又た千里耳たるべき天性を具ふる者なりと信ず』と云へるに徵して本書の全班を窺ふに足る尙細評に至つては別に之を試むるの時あるべし兎に角精神統一研究の良書として玆に紹介す一册三十錢賣捌所は本町日韓書房

●東拓會社落成
目下明治町に建築工事中の東洋拓殖會社は工事着々進捗し來る十一月迄には完成の見込

●和泉艦の出港
仁川外港碇泊中の軍艦和泉は二十四日正午十二時拔錨鎭海灣に向へり

●春季淸潔法の終了
警務總監部に於ては本年三月以來各道春季淸潔法勵行中なりしが本月中旬を以て全部終了

●普通學校設立認可
忠淸北道報恩公立普通學校外四校設立の件二十一日認可されたり

●龍山西湖川の架橋
龍山管內の龍山西湖面間の通路は人馬の交通頻繁なるも其間を流れる西湖川の小橋は僅かに行人の通行に堪ゆるに過ぎずして牛馬車は河中を徒渉せざる可からざるを以て西湖面長發起となり一橋三百圓の豫算にて二ケ所に相當の橋を架ける事を計畫し其費用は二百七十圓を人民にて負擔し三百圓を京城府に補助を出願し不足額及附近道路の修繕費用は朴齊純子、趙義淵男より寄贈する筈なり

●總督府の執務時間
來る七月一日より九月二十日迄總督府所屬官署執務時間は午前八時より正午十二時迄なりと

●平壤の移輸出入
平壤稅關出張所に於て取扱ひたる本月一日より十九日まで移輸出入額は移輸入の鐵道によるもの五万一千八百三十六圓圓濟によるもの四萬五千六百六十五圓合計九萬七千四百一圓又た移輸出は鐵道にて三百六十四圓圓濟にて二万八千八百七十六圓合計二萬八千二百四十圓なるが此外移輸出の方に於て金二十九万七千圓ありしと

●平壤手形組合保證額
本月中旬に於て現在高十五万七千九百二十九圓なるが[illegible]

公人私人
▲芥川正（釜山日報社長）二十二日捕尾旅館へ
▲齋藤太郎（代議士）同天眞樓へ
▲笠貞次郎（全羅南道警務部長）同上
▲渡邊庄治（土地調査局監査役）同原金旅館へ
▲陳宗鎭（淸國度支部官丞）巴城ホテル
▲權思吉（同上員外郎）同上
▲宮崎友太郎（韓國實業銀行取締役）大邱行
▲芦谷幸治（海軍大尉）仁川行
▲析田一二（同上）仁川行

內地巡禮日記（壹）
水浪生

二十一日早朝花屋旅館に滯在中なる早稻田大伯に敬意を表す、出入の訪客玄關を封鎖し、取次の女中氣も狂せんずる有樣、伯が茶代をハツコマざるべからざるの理由慥かに存す、之を聞く、大阪の人士は大体巧利に因つて固まり井上、松方、桂等の人々には兎も角、大隈其人の如きに對しては全く鼻摘みであるべき筈なのである、伯來る、大阪人士の受くところの者は何、曰く寄附金の勸誘、而して此寄附金たるや個人的には何等の利益を生まぬ、而かも巧利の評ある大阪人士は伯の來る每に歡迎し、伯の寄附金募集に喜んで應ずる之れ矛盾と云はんか、將た不思議と稱せんか、兎にも角にも注意に値する現象であるのだ。併し翻て考ふれば大坂人士が大隈伯を歡迎し、且つ其言に聽くのは決して不思議でもなく亦矛盾でもないのだ。大坂人士は其從事する海外貿易に因りて大なる世界的の富と智識を獲た、巳に富と智識に於て世界的となれる大坂人士が、我當代唯一の世界的偉人早稻田大伯に接近し其言行に親んで自己の世界的趣好と欲求とを滿足せしめんと計るは素より當然の事だ花屋を訪ふての後ち梅田から神戸行の汽車に乘つた、車中三人の英人あり、而して其一人は容貌風采より判じて船長らしく、得意のヤンを紡いで他の二人をして笑はしめた。（玆に斷つて置くがヤンを紡ぐとは船員の仲間では出鱈目の話をすると云ふ事である）船長曰く印度はカルカツタから一千哩許り奥に一ツの大きな池がある、此池に產する小魚はモローと云つて極めて不思議な魚で水に住んで游ぐことも出來れば亦た翼を有して飛ぶことも出來るので、他の動物の如くモローにも雄と雌とがある、玆に困まつた事にはモローの仲間には嫉妬邪魔するものが多く相愛の間と雖ども池中に於ては安全なる場所を得ることが出來ない。ナチ斯ふ云ふ譯であるから彼等は池中を離れた更を明るかと云ふに乃ち池の周圍に立てる樫の樹上である。船長尙語を續けて曰く自分は印度內地旅行中一日通りに立ち幾千組と云ふモロー魚族の相愛者が池の中から相携へて飛出ソウして樹上に接するのを見た、向上的異性の愛、余はモロー魚族に於て始めて實現せられたるを見受けたと語り了りて船長がパイプに火を點とするとき汽車は三宮に着いた。

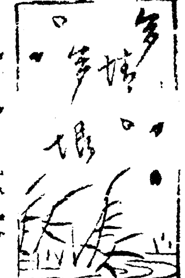
▲茶袋▼
朝鮮の田舍で布敎に從事してをる鮮人基督敎傳道師の中に今に日本の政治に誤解を抱ぎ排日的言辭を弄するものがあつて、それが爲め迷惑を蒙つてをる宣敎師も少くない、特に當京城に在留の外國人宣敎師の間では痛く之を心配して、ドウかして彼等の誤解を正したいものと努めつゝある▲トコロが這麼頑迷偏僻な傳道師も顯然と開悟するであらう、彼等の執を排除するは此外に術なしとて、某外國人敎師は主張し、終に廿一日の皇城靑年會で其相談會は開かれた▲ドクトルゲール、アンダルト及びヘーヂ博士の三師は此の計畫に對し熱心に賛意を表せるのみか、自ら眞先に斯くざる可からずと大に首唱する所あり、けてる間際、ドウ取り違へたかエピソを以て大勢既に決定といふ事に傾きンといふ宣敎師は斯る政治的意味を含むだ觀光團の組織は宗敎家の干與すきものでないとの理由の下に反對をしたので折角の相談會も未了の儘でおれとなつたそうな▲鮮人傳道師中の迷者の妄を開くは尙に日本を見せる外はない、彼等の仲間は日本の文明を知らず一概に自分が偉くと何の外にの國とのみ文明とばかり思つてを人▲幸ひ海老名植村の諸牧師も來京中の諸氏の盡力によつて外國人宣敎師も定を遂げ、是非日本觀光を實行させいものだ▲民團存廢問題に就て總督府にて調査中であるとか、而して來月の府尹會議に諮問の上で何とか決かる民團にも一聽案を示して諮問をするのだそうな、民團存廢問題決輕々しく決行すべからず。宜しく各らよかろう、聞けば京城民團では鮮人を混同して自治制を布くは絶對不可なりとの意見を總督府へ具申ことになつたそうだ。

相場電報（明治町西村支店着）
（廿二日後場）（廿三日前場）
[illegible] 三二、一〇〇 三二、一〇〇
[illegible] 六〇、一〇〇 六〇、二〇〇
[illegible] 五九、九〇〇 五九、八〇〇
[illegible] 一〇〇、[illegible] 一〇〇、[illegible]
▲大阪株式 一〇五、四〇〇 一〇〇、一〇〇
▲東京新 八七、九〇〇 八七、二〇〇
▲大阪[illegible] 一五、三〇〇 一五、二〇〇
▲[illegible] 一五、七〇〇 一五、五〇〇
▲關西[illegible] 一五、二〇〇 一五、三〇〇

仁川米豆取引所
●前場 大七出來不申▲八月限十一圓四十二錢▲最高十一圓四十七錢▲最低十一圓四十二錢▲止十一圓[illegible]
●後場 八月限十一圓五十錢▲最高十一圓五十五錢▲最低十一圓四十八錢▲止十一圓五十三錢

大阪期米電報
●前場 六月限十七圓十四錢▲止十七圓十四錢▲七月限十七圓三十八錢▲止十七圓三十四錢▲八月[illegible]
●後場 六月限十七圓十六錢▲止十七圓二十四錢▲[illegible]▲止十七圓四十五錢

▲京釜兩驛の貨客▼
▲京城驛 乘車客 七一六 降車客 九五二 乘車賃金 一、四三四、四二〇
▲南大門驛荷扱高（廿二日分）發送貨物 五一噸 到着 五〇五 發送 貨物賃金 [illegible]
▲龍山驛乘降客（廿二日分）乘車客 一八九 降車客 一九二 乘車賃金 一二九、四四〇
三順 到着 二三七 貨物賃金 六八、一〇〇



京城藝妓の半生（四二）
菊家文之助（三）

彼れの幼時は女と云ふよりはヘンナであつた、如何に學校が嫌ひでも家の人が承知しない朝になると辯當を持たして追ひ出す詮術なしの奴さん學校へ出る、出るは出るが元々嫌ひな學科である爲めか授業時間中もジッとは爲て居られないで同列の生徒又は前列の生徒の尻をツネり、擽ぐる、突く、引つ張るの惡戲、更に嵩じては芝居の口上を言ふ歌を唄ひ、運動時間には女の兒とは遊ばないで男生の方へ侵入して角力する喧嘩をする夫れも敗けて居れば未だしも終には敵手を泣かして萬歳を唱へると云ふ始末で試驗の時はイッも落第、學校でもよく〳〵持て餘したものと見へて九歳の秋遂に退學を命ぜられた、彼れの身に取つては此れこそモツケの幸である、夫れから天下晴れて惡戲に日を送つて居たが、十一の年の夏不幸にして父親に死別れた、父親が臨終に際しての遺言に「鬼千代は昔も知つての通り [illegible]

[illegible]

●馬藝妓で通り者になつた、町内の [illegible]

の子供や若衆などが拍手に喝采でも爲ようものなら夫れこそ事で忽ち振り袂を引つ擔いで腕を捲つて太鼓の撥を振り上げて打つて蒐る師して會つて負けない、鋭敏なのは頭腦斗りでなく手も拔ければ脚も早いポカンと食はして置いてスウーツと外す疾さこと風の如しである、斯う云ふ風で**十四の秋**迄は自家で稼いで居た、デ偶には藝妓を廢す樣にと親類の者が意見がましい事を云ふものもあつたが本人父親の遺言を楯に取りて耳にも入れない、其所で親戚一統の者も諦めたと見へて協議の上同じ藝妓にするなら自家に置くよりは何處かへ預けた方が當人の爲にならうと云ふのに話が決着して**三ケ濱**へ遣られて藝名を八入と變へて出た、流石の惡戲娘も此れには少なからず閉口したと見へて大きに温和くなつた、と云ふのも比較的の話であるから其の上に『以前から見ると』が附くことは勿論である、夫れは彼れが其の三ケ濱で頂戴した**仇名**に依りて證據立てられる即ち出ると間もなく**サンシヨ**と呼ばれた如何に小粒ながらヒクりして居たかが判るであらう、全體此の三ケ濱と云ふ所の藝妓は何れも滿足なのは無かつたと、見へて何時も [illegible] ると土地の藝妓は顋 [illegible] 一つ座敷を勤めて居る

土地の者に追ひ使はれる松山藝妓

[illegible] 然るに土地の者は [illegible] はず平氣で居る、夫 [illegible] 口惜しく感じた [illegible] 十五の春蕃然として [illegible] の位置を上げるのは [illegible] 行に出掛けて同地の梅の家へ入り込んだ、小粒ではあるがサンシヨは辛い、彼れは既に [illegible] で凡庸の徒とは其撰を異にして居たのである

●梅悟の自白（七）　金波投

[illegible] 川林と云ふ船員と内縁を結んで山手通に新世帯を持つて夫婦差向ひ初めのう [illegible] 今日は芝居明日は花見と遊び暮して互に身のあらを隱し合て拵 [illegible] するらんだから近所の [illegible] 寄ると觸ると妾の噂が [illegible] 美しいの仇つぽいの [illegible] たつと男といふものは [illegible] 多いのでいつとはなしに家へ出入をするものが殖へる、だん〳〵懇意になると亭主が出勤の留守中でも遊びに來ては茶菓子でもれとつて妾の顔を見て涎を垂して悅こんでいると云ふ調子だもんだから妾にして見れば彌々益々虛榮心が增長して人も羨れは自らも許すてんな嬌艶花も羞らうあつたらの美人を定まる一人の男の專有物にされては眞尺に合つたものでないから一番內職に頼る見込のある有財餓鬼を手當り次第に生捕つて思ひのまゝに妾しの本領を發揮して見ようと大野心を企てゝ居ることをすこしも御存ない川林は妾を貞操無二の戀女房と大切に崇め奉る可笑しさ不憫さいじらしさ朝夕てんな工合で妾の言ふことならいかなる難題でも仰かぬ處のデレを見込んで幸ひ船員で月のうちには航海中の二週間餘は安心に留守だからこの好機を利用して妾が以前ケーチさんのらしや時代に懇意な商館で「アマ」をして居た女が今では世帯をもつて生田の上にチヤプヤを初めて二三の白首を抱へ盛んに西洋人や支那人の血を搾つて居ると云ふ話だから久々實況視察と出掛ける積りで今日は特別髪は大ハイカラの白粉をでこ〳〵につけて濫艦飾で其家へ行つた處が丁度其日は亞米利加の大きな船の入港した時でうれの航海長とか事務長とかで色の黑い脊の高い熊のような恐しい男が酒を飲みに來て居て妾を見るが否や團栗眼を細く〳〵てわなたいさん別嬪ありますか私らぶしました彌澤山ありますあなたあげますとかたこと交りの日本語で妾を捕へて口説たてポケットの金貨や銀貨をちらやら〳〵させて挑まれて見ると鬼のような男でも慾といふやつに煽られて蹴て覺へた英語を利用して巧く手の內にまるめこんで燃るが如き彼れの强求を許したので翌朝金貨が二十弗サこれを思ふと岩龜樓の總遊はひらけない馬鹿な女だよと鼠鳴して波止場まで送つていつて熱した握手は次の逢瀬の電氣作用

養父を恨んで駈落　△名古屋から仁川へ

仁川濱町の一富士支店に去月末頃より潜伏し折々丸髷姿で外出する美人あり誰知るとなく大評判と成たが身の只者ならざるは一見明かなるより尚更疑問と成りて衆目の的となりしが果して此の女と云ふは**名古屋**市中區正木町五百六番地**三浦のぶ**（三）とて同市東區蒲燒町十四番地藝妓家大杉まつ方に昨年十二月金九百圓餘にて抱へられ稼業中本年二月十七日夕方同市中區南呉服町待合和喜亭より呼ばれたれば主人も平素の如く例の客と信じ遣はし置きたるに何校歸宅せず翌十八日三州豊橋より女の手紙にて**豊川稲荷へ參詣**に行きましたと主家へ通知したるより主人はア、左樣かと安心し居たるに其儘何日迄過つても歸宅せぬより主人は狂氣の如くなり鵜の目鷹の目で搜査に取懸り一方相手の男を取調べ見ると男は同市西區外堀町**川島米太郎**（三五）と判明したり米太郎は幼少の頃より花柳の巷に出入し父の財產數万圓を蕩盡し勘當の身と成りし者にて當初は米太郎ものぶの爲めに隨分と費消せし事とて互に憎からず思ひ交せし事情もあり共に悲慘の境に陷りしを嘆き遂に互に手に手を取て**驅落**と度胸を極め込み一時大阪に潜伏し居たるも更に方法も立たざるより一層朝鮮に行けば仁川の**一富士支店**の主人とは知己の間柄なれば何とか**身の振方**もつくならんと去月來渡來し同店に夫婦氣取で宿り込み居たを前記大杉方より仁川署へ搜査の願出でしより一昨二十二日午後四時頃刑事が出張して見ると相も變らず同店の二階に居りしかば前記の事情に依りのぶは同店の主人に保護を托し置き目下大杉方へ引取方を照會中なり因にのぶは三才の折**養女**に貰はれ茶道生花裁縫等は勝れて達人と成りしに不幸にも十七歳の折藝妓に**賣飛**され辛き憂目を見て昨年漸く年明けとなりしより目出度歸宅したるに又もや養父は殘酷にも大杉方へ九百餘圓にて身を沈めさせたるよりのぶは養父をうらみ又世を悲觀して居る所なりしかば丁度好い幸と米太郎に連れられしなりと

●矢野動物園來る

釜山、仁川、郵等を巡回し一般の觀覽に供しつゝありし獨逸ハーゲンベツト動物會社と特約ある矢野動物園は此度當地旭町民團裏空地に開園することとなりしが當地には既に李王家經營の動物園あること乍ら彼れに有りて此れに無きもの此に有りて彼れに無きもの數多ければ一覽の價値充分あり其の目方四十六貫の大獅子及コンゴーの如きは當地に於て珍らしきものなるべし尚同園にて買入れたる印度ヒンナン產大象二十六日神戸入港の豫定に就き直樣仁川に回送し陸路入城せしめ其の到着を俟つて開園すべしと云へば日取は未定なり

●待合春日主人公判　元

待合春日の主人橋本寨吉の傷害犯は豫審終決して來る二十六日公判開廷の筈

●帶と酒と仕込杖　旭町一丁目

東海旅館止宿福岡縣人平田周藏（三五）は一月九日大和町一丁目三百三十一番戶酒商山本富三郎方に至り自分は旭町三丁目藤田組の使なりと稱し三斗九升入酒一樽（代二十餘圓）を騙取して賣却し同日藤田組內須賀義男所有の仕込杖を窃取し越へて六月十五日米倉町八番戶吾田八郎を詐き縮緬兵兒帶を騙取し入質費消したる事南部署佐藤川副岸長野の四刑事に探知され目下取調中

●不埒なる青二才　元農商工部

山林課雇千葉縣人石田義雄（三二）同縣人無職宇井眞（二〇）の二名は新町遊廓玉家及日曜樓等に數日間流連して玉家に十六圓餘日曜樓に十七圓餘の遊興費か支拂ひ出來ず無錢遊興として南部署に引致され取調中なるが何れも他に犯罪ある見込にて長野佐藤岸川副刑事等は極力犯罪搜査中なりと

●人を食て一圓半　旭町三丁目

七十九番戶請負業藤田菊太郎方の飼犬か數人を咬傷したるより南部署より獸醫に檢診さす可き旨命令したるに應せす其の內又〳〵咬傷せし旨訴へ出でに因り過料金一圓五十錢に即決言渡しありたり

●果して誰が罪か　壽町一丁目

入十番戶矢野いせ私生兒壽一（一三）は同町七十九番戶の一石原虎一方に忍入り夏服外一點を窃取し他人の名義にて入質し居る事發覺し南部署に取調中なるが尚ほ餘罪ある見込なりと

●傷害犯人の處刑　仁川花房町

二丁目池田久米藏方和歌山縣人横山政吉は傷害犯にて京城地方裁判所に於て懲役六ケ月に處せらる

●京城郵便局を襲ふ　京城中部署洞

金順萬（三二）は六月二日午後十一時頃京城郵便局に忍び入り局員の不在に乘じ同局發着受渡口なる棚上に置きありし麻製袋二十個を窃取京城地方裁判所に於て懲役二年に處せらる

●演藝だより

●壽座　二十一日初日開場已來毎に午後六時迄に大入札止めの好人氣を博せる片岡松之助一行二十四日の代狂言は二十三日附本紙に報道したる如く前「赤穂義士誠忠錄」横川勘平餞酒の場より大石良雄十八ケ條申開きまで一同大車輪にて殘らず相勤むべく切は「梅忠封切り」と云ふ粹な物なり正午より二時迄に入場の方百名に限り本日無料なることは最初の通り

●浪花館　京阪合併演藝會の演し物は小倉船（枝輔）戀合船（枝め吉）紺芝居（枝三郎）宿かへ（圓三）瓢箪演藝（一芝鶴）▲筑琶靈湖中佐（駒彌）業浪傘（福圓）大島圭介（柳丈）浦國香曲（ジヨンペール）

平民文庫

▲余は所要ありて頃日數回黄稲郵便所へ出頭せしが該所長の事務の扱振りには實に感服しました隨て女事務員の扱ひ振りも亦頗る親切を極め居れるを見て感謝しました市內に局所も數多しと雖も蓋し此の郵便所の如きは稀に見る所なり、本町六丁目の夫れの事務員達見習に行けよ（消費院生）▲農商工部在勤の加藤○○は去る夜高等演藝館內にて朝鮮藝妓と狂態を演じて居た（實見生）▲日本の或る所では洋畫寫眞は小學校生徒の絶對に見る可らざるものと規めた當地の高等演藝館の如き不埒の辯士……危險思想を抱ける……活動寫眞の說明に托して穩かならぬ言辭を弄するものゝ居る高等演藝館などは大に取締つて然るべしだ（への字）▲京城○○○○聞屋組合なるものは何をして居るのか聞く所に依ると合百類似の事をしてるとか（成金）▲昨日本町に出て居た本町の○田の善さんとは本町三丁目の平田の善さんでは御座いませんか若し平田さんの事なら大間違ひです思ふに或る者の仲傷に出でたる投書なるべし（千里眼）▲京城に於ける素人玉突の番附を作らしては如何にや面白い突手が澤山ある（百點生）▲面白し調査すべし（係り）▲僕は毎日壽町通の寫眞館前を通勤するが此館主は勤勉家だと見へて非常に發展した吁勤勉なるかな（朝夕通行生）▲京城の人力車界にも僅かに二三ヶ月の間に譯讀輪が澤山 [illegible] た今の所では池長君の四十臺が [illegible] だらう伊藤、別府、前山組等でも之れでは堪らんと十五日東京へ向け出發したから近く三四百臺も移入されるであらう（エービー生）▲井門支店の瀧すさん其樣に怒るものじやありませんよ彼樣奴は好でもありませんなんて何ですか口惜いのホントに氣が狂つたのじやありませまいね情意投げ合ひしましよか夫れとも彼樣奴なんて口で貶して心で惚れてるのぢやないか（○○より）▲大和町柄澤洗濯屋に關する投書少時れ預り事實精探の上とす（係）▲風俗壞亂の酌婦屋も去十八日限り市內雜營に吾人の大營政で彼等數多の中有力なる者は新町或は桃山に移轉したるも無力なる者のに至りては今猶古巢に蟄踞して密かに下都動物を裏口より引込み枕安に切實をして居る實が此處彼處にある殊に市內の飲食店氷屋そばやしる粉屋杯にはなまめかしい給仕女が居て十二時過ぎから亡醉婦の行爲を演じ處なくやらかす是では折角の取締令がなんにもならない（現探生）▲野暮だナア此の男は（小僧）

●大坂期米電報
●前場　六七出來不申▲八月限十一圓四十二錢▲最高十一圓四十七錢▲最低十一圓四十二錢▲止十一圓 [illegible]
●後場　八月限十一圓五十錢▲最高十一圓五十五錢▲最低十一圓四十八錢▲止十一圓五十三錢

▲京龍兩驛の貨客
▲南大門驛乘降客（廿二日分）[illegible]
▲南大門驛荷扱高（廿二日分）發送貨物　五一噸　到著 [illegible]　五〇五
▲龍山驛乘降客（廿二日分客）乘車客　一八九　降車客　一九二
▲龍山驛荷扱高　乘車賃金　一二九、四四〇（廿二日分）

[illegible] 増加を見たりと云へり
